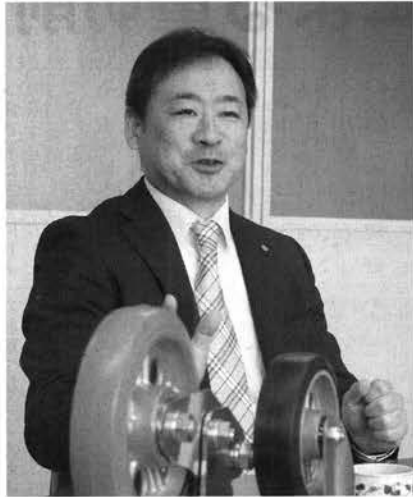


国内 自社生産にこだわり、 要望に応えるオンリーワン企業へ

ユーエイキャスター 代表取締役社長 雄島 耕太氏



産業用を中心とするキャスター総合メーカーのユーエイキャスター(東大阪市、従業員310人)は今年10月、設立40周年を迎える。同社の産業用キャスターは始動の軽さと耐久性の高さが特長。福岡と奈良に合わせて3つの工場をもち、国内生産にこだわる。その真意を雄島耕太社長に聞いてみた。

「この4月に発売された衝撃に強いけん引用クッションキャスターや旋回始動性の高いものはそれほど多くない。それだけ使用環境が苛酷象徴されるように、貴社製品という点。新製品は従来より3倍ほど長寿命なものにつ

くりあげた

「耐久性アップの秘訣は。当社が独自に様々な技術を培ってきた。新しい材料も積極的に採用してきた。自動車用の高張力鋼板などはいち早く採り入れた方だろう。硬い材料は同時に割れやすい性質をもち、絞り加工しづらくキャスターに向かないとされる。が、当社は金型づくりから手がけ、自社設備で製品・部品の大半をつくっているため、高張力鋼板の採用も可能になった」

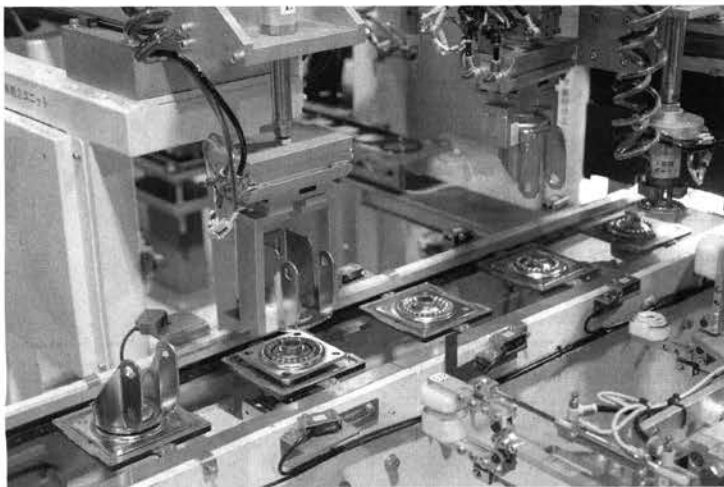
「アジアから仕入れた部品を国内で組み立てる方が得策のような気がします。内製化するメリットは。多くの設備投資をしなければならぬから一見、負担だけがのしかかるように見えるが、きめ細かな対応力がつく。外注任せだと、できないと言われたらそうかとなるが、自社でなら何とかつくり出す。設備をもつ者の強みで自由に何度でもトライでき

る。同時に製品化するスピードも格段に早くなる。当社では6千種類以上のキャスターを生産し、このうち約70%はオーダー品。自社生産でないとは難しいだろう」

「新製品の発売とともに、従来の1.5倍となる260頁の総合カタログを4年ぶりに発行されました。景気がよいようです。」「いやいや横ばいといったところ。ただ年内に4つ目の工場を竣工する予定。生産能力を拡大するためだが、リスク分散の意味合いも大きい。どの工場でも同じものを同じ品質でつくれるということは今後ますます重要になるだろう」

「国内キャスター機器市場でシェア1位になりたい。今は当社を含む3社が市場の6割強を三分するかたちだが、

今後売上高100億円を目指してさらに努力していきたい。その後は1000億円を目指す。そのためには事業の多角化も必要だろう。ボックスパレットメーカーであるアイモイを100%子会社化したのもその一環。今後は物流企業などから当社キャスターを指名買いされる存在になりたい」



自動化した組立工程